

<様式1>

令和3年度 さいたま市立東宮下小学校 自己評価書

校長 田口 彰久

1 学校で設定した「令和4年度の目標」及び関係する「評価項目」について

- (1) 学校では、学校行事やみよりの時間(総合的な学習の時間)に地域の学習素材を活かしながら、特色ある教育活動を展開している。—田植え、稲刈り(学校行事)6年「ヨーロッパ野菜栽培」等、地域や地域企業と連携し、特色ある教育活動を展開した。
- (2) 学校では児童一人一台配付されたタブレット端末を活用し、効果的な学習を行っています。—週2回の業前時間をタブレット端末の習熟する時間に充てることで、児童の技能向上に努めた。
- (3) 学校は、いじめ問題・問題行動・不登校問題に適切に対応している。学校は、子どもの様々なトラブルや悩みに適切に対応している。—「心と生活のアンケート」長期休業前のアンケートを基にした面談などを通じて、児童のいじめ問題や悩みに適切に対応している。
- (5) 学校は、事故防止のため、施設・設備や通学路の安全確保に努めている。—月1回の安全点検ではチームによる複数の目による確認や日々の安全点検によって、施設・設備の安全を確認し、必要があれば迅速に修繕することができた。
- (6) 教職員が学校業務改善計画を立て、ワーク・ライフ・バランスの充実に努める。—個々の業務改善計画の作成や「かえるボード」による帰宅時間目標や計画的な休暇取得により、教職員の業務改善を進めることができた。

2 評価結果について

- ・保護者対象の評価項目「学校では『確かな学力』の定着に重点を置き、学習指導の充実に努めている」(94.4%)、児童対象の評価項目「先生方は一生懸命勉強を教えてくれる」(97.8%)等、学習指導に関わる項目について肯定的に回答した割合は総じて高い評価となった。特に児童対象の評価項目における「先生の授業は分かりやすいです」では、肯定的な回答をした割合が99.3%に達しており、教職員の学習指導に対する熱意とともに、少人数指導や個別指導といった児童個々の学習進度に応じた指導の効果であると考えられる。
- ・学習利用が本格化しているタブレット端末の活用について初めて調査を行った。「保護者対象の評価項目「学校では児童一人一台配付されたタブレット端末を活用し～」(90.7%)となるなど、児童・教職員対象を含め高い評価となった。今後もタブレット端末の学習利用について、活用法の研究と実践を重ねる。
- ・学習した内容を確認するテストなどの結果に目を向けると、児童個々の学力差には依然として大きいものがある。タブレット端末を使用することによる学習意欲向上の効果なども利用しながら、継続して児童個々の学習意欲を引き出し、学習進度に合わせた指導や家庭学習による基礎の習熟を続けていく必要がある。

3 次年度に向けた具体的な改善策について

- ・児童の自由記述にあった本校の学校でのきまりを記した「よい子のやくそく」の改善について、3学期に児童会を中心に見直しを図るなど、今後も児童が主体となって自分たちの学校のきまり「よい子のやくそく」を作っていく。
- ・児童の側から教職員への相談のハードルを下げるができるよう、「教職員が児童と会話する機会をつくる。(「先生とお話ししようねタイム」といったものを設け、短い時間でも、学級全員の児童と対話をする時間を設ける。)」「授業参観の際の、保護者アンケートの活用を図る。」などの方策を実施する。